近年話題になったサルたち

奇跡の母ザル

02

B群　マツバ

B群の「マツバ」という名前のメスザルが、2021（令和3）年に話題となりました。マツバは 2022（令和4）年9月現在 20 才で、人間の年齢では 60 代前半にあたります。これまで5頭の子どもを出産し育ててきた子育てのベテランです。

マツバは、2021（令和3）年5月 31 日にオスザルを出産しました。話題のきっかけとなったのは6月 29 日の出来事です。現在、高崎山では午後 4 時 40 分にB群へサツマイモをリヤカーで与えています。サルはこの餌が終了すると各々山へ引き上げていきます。その際、おさるの保育園に赤ちゃんザルを預けている母ザルは迎えに行き、一緒に山へ連れて帰るのです。万が一、母ザルが迎えに来ない時は、職員がわざと赤ちゃんザルに近づき鳴き声を上げさせ、母ザルが気付いて迎えに来るように促してあげます。生後間もない赤ちゃんザルが1頭で残ったままだと母乳も貰えず、最悪の場合が

想定されるからです。しかしこの日は、「おさるの保育園」に1頭の赤ちゃんザルが取り残され、サルたちが山へ帰る午後 5 時頃になっても母ザルは迎えに来ていませんでした。この時、私たち職員は遠くから様子を見ていましたが、母ザルが迎えに来る様子もない事から、赤ちゃんザルの方へ職員が近づいてみました。しかし、近づいても赤ちゃんザルは鳴き声を上げることをしませんでした。結局母ザルらしき姿は一向に現れず、その赤ちゃんザルは自力で石垣を登り山へ姿を消したのでした。そんな赤ちゃんザルを心配して近くで見ているマツバを職員は目にしていました。その時は、マツバが抱いてくれたらとの思いが胸をよぎりましたが、マツバの胸元には既に1頭の赤ちゃんザルがいるため、2頭を世話する事は無理ではないかと諦めていました。

そして翌日B群が山から下りてくる時間となり、私たちは前日の赤ちゃんザルの安否が心配で見ていたところ、山から下りてくるサルの中に、2頭の赤ちゃんザルを抱いたマツバを見つけたのです。恐らくマツバは、前日の夕方自力で石垣を上った赤ちゃんザルを放っておけずに、我が子と共に抱いて山へ帰り一晩を過ごしてくれたのでしょう。

マツバのこの行動は、ニホンザルの中でも、高崎山の 70 年の歴史の中でも珍しいことなのです。ニホンザルは、自分の子どもにしか関心を持たないことが多く、たとえ自分のそばで他のサルの赤ちゃんザルや子ザルが鳴き声を上げていても面倒を見ることはありません。また、基本的に一産一児で2頭を生み育てることはないのです。実際、高崎山でも双子が誕生したことはありますが、非常に稀で、開園以来9例しかありません。さらに2頭とも無事に成長したのは3例しかないほど、メスザルが2頭の赤ちゃんザルを同時に育てることは非常に困難なことなのです。

この日を境に、マツバは2頭の赤ちゃんザルの子育てを始めました。マツバは、時には背中と胸元に1頭ずつしがみつかせたり、時には2頭とも背中にしがみつかせたり、胸元に2頭ともしがみつかせたりと、2頭同時に抱えて歩く極意を見せてくれました。更にマツバの様子を見て感心させられたのは、赤ちゃんザル2頭を背中に乗せて移動する際に、しがみついている赤ちゃんザルが落ちないように尻尾を「ピーン」と立てて常に守ってあげている母ザルの姿でした。

当初は2頭を育てていくうえで母乳が足りるのか心配をしていましたが、いらぬ心配だったようです。どちらの赤ちゃんザルにも分け隔てなく母乳を与え、赤ちゃんたちは元気に育っていきました。

母乳だけで過ごしていた赤ちゃんザルたちも、次第に30分ごとに園内で撒かれる小麦の餌を拾い始めるようになり、その成長とともに各々個性が出てきました。1頭はマツバから片時も離れることをせず、もう1頭はチョロチョロと動き回るようになったのです。そんな時もマツバは動き回る赤ちゃんザルの付近に必ずいて優しく見守っていました。階段等の危険場所では先回りをして様子を見たり、落ちないように下から見守ったり常に気配りを欠かすことはありませんでした。

季節は秋を向かえ、赤ちゃんザルたちは更に活発に動き回るようになり、これまで以上にお世話が大変になってきましたが、実はそんな時マツバには力強い味方がいたのでした。その味方とは、これまでマツバが産み育ててきた子どもたちです。お姉さんザル、お兄さんザルはマツバと同様に2頭を分け隔てなく毛づくろいをしてあげたり、遊んだりとお世話をしてあげていたのでした。

そして2頭の赤ちゃんザルにとって初めての冬。この年に誕生した赤ちゃんザルにとっても試練の時季になります。高崎山は比較的温暖な気候ではあるものの、それでも冬の寒さは厳しく、乗り越えることのできない赤ちゃんザルがいるのです。特にこの年は、高崎山にしては珍しく雪が積もるほどの寒さでしたが、マツバは寒さに震える2頭の赤ちゃんザルを胸にしっかりと抱きしめ、無事に冬を越すことができたのです。

2023（令和5）年1月現在、2頭の赤ちゃんザルたちは1才を迎え、2度目の冬を過ごしています。この2頭はオスザルです。オスザルは近親交配を避けるために概ね3才から4才で親元を離れ独り立ちをしてしまいます。いずれマツバの元を離れる日が来るでしょう。マツバが繋いだ小さな命。マツバがいなければ、消えていたであろう小さな灯が消えずに残りました。優しいマツバの行動は、今後も語り継ぐべき高崎山の歴史の1つとなりました。